

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2017年10月号>

127号 2017. 10. 02 配信

秋の長雨も終わり、本格的な秋の始まりです。この季節、美しい紅葉の景色は、様々な懐かしい思い出を蘇らせます。毎日が忙しい方こそ少し歩みを止めて、身近にある自然と親しんでみませんか。

■同窓会だより

◆『2017 ワーキングネットワーク秋祭り』を開催しました。

9月9日(土) 13:00~16:00、学園本部館中会議室に於いて、ソフトブレン・フィールド(株)代表取締役社長 木名瀬博氏をお迎えして、「眠れる力を無理なく引き出す」をテーマに講演会を行いました。(参加40名)



木名瀬博氏

木名瀬氏はアサヒビールに入社後、長野支店、横浜支社の営業部門などを経て、子会社の設立に参画され、取締役役に就任。そしてアサヒの独立支援制度の第1号として、現在の会社を立ち上げられました。

「埋もれている主婦の力を掘り起こしたい」という気持ちは、働きたいと思う人が「好きな場所で」「好きな時に」「好きな仕事を」「好きなだけ」働ける環境を作り出し、更に必要としている企業に繋げる事業を、木名瀬氏は積極的に展開されています。現在、全国にキャストと呼ばれる会員が65,000人登録し、毎月4,000人程の方が仕事をされています。そして、そのほとんどは女性であり主婦が中心となっています。

やりがいや誇りの持てる仕事を求めている主婦に、「どんな状況でも無理なく継続的に働ける場」が当たり前提供される社会であって欲しいと願い、将来的には、少子高齢化、独居老人、過疎化などの社会問題に対してもキャストネットワークを活用し、コミュニティの構築に貢献したいと力強く話されました。(文責:松本)

■学園だより

○先哲の慰霊祭 10月5日(木) 10時40分~ 『先哲の碑』前

○第5回オープンキャンパス 10月28日(土) 13:00~16:00

推薦入試をお考えの方は、是非ご参加ください。

秋桜祭のお知らせ

本年も光葉同窓会は、大学で開催される秋桜祭に参加いたします。同窓生一人ひとりが、それぞれの場所で今年のテーマ「輝」の存在として、頑張っていることでしょう。

是非皆様お誘い合わせのうえ、お出掛けください。お待ちしております。

○第25回 秋桜祭『輝』 光葉同窓会参加内容

日 時：11月11日（土）、12日（日）10：00～15：30

会 場：大学3号館1階教室、玄関ホール、学生ラウンジ

〔パネル展示〕 ◆「伸びゆく光葉の樹木」 ◆生涯学習活動報告

◆働く女性を支援するワーキングネットワーク活動報告

〔バザー〕 収益金は、在学生の奨学金に充てられます

◆全国51支部、同窓生有志14グループ、同窓会本部が参加します

〔子どもゲームコーナー〕 沢山の景品が用意されています

■広げよう光の葉

伊藤 雅子さん

1983年 家政学部生活科学科卒

(秋田県支部)

「あなた秋田支部立ち上げてごらんさい、もう一度卒論だと思えばよいのよ」住所変更の手続きのため光葉同窓会本部に電話した時の事、懐かしい、卒論をご指導いただいた加藤澄江先生（第4代同窓会会長）のお言葉でした。さてどうしようかと思っていた時、たまたま趣味の教室で出会った方が昭和の短大を卒業した先輩でした。その方と秋田県在住の卒業生に呼びかけ、秋田県栄養士会研修会に福島正子先生をお呼びした流れで、懇親会を開催。それがきっかけで秋田支部会発足の運びとなりました。第1回総会（2001年）には加藤先生ご来秋、他県の支部長さんもお祝いに駆けつけてくださったことを記憶しております。

私は大学卒業後、出身地秋田に戻り、管理栄養士として一般食品会社、学校給食、老人福祉施設それぞれの職域を経験。ちょっと一休みと、鹿児島県屋久島に旅に出たところ、「ここに住みたい！」と本能的に？直感し、島内観光ガイドの方が病院の院長と友人だったことからご縁がつながり、屋久島徳洲会病院へ転職。青い高い空、エメラルドブルーの海、冬でも花が咲き乱れている地。住人の気質も、食文化も全く違う場所で7年暮らしました。余暇は島の大自然を満喫、屋久島にいないとできないことをしよう、屋久杉木工に挑戦し、木屑の中に埋もれて、パレット、ペンダント、皿、お盆などの作品作りに没頭しました。

その後喜界徳洲会病院へ5年。住所変更届をしたところ、名簿をみて、喜界島に実家がある方が私の勤務先の病院まで訪ねてきてくださいました。初めてお会いするのになぜか懐かしいと思うのは同窓生という薫りのお陰でしょうか。親類縁者のいない土地にいる私を、暖かい言葉で励ましてくださったことで勇気が湧きました。

喜界徳洲会病院勤務時代は、栄養士教育と僻地医療に熱心な医師達との出会いがありました。

日本の栄養士界でご活躍の先生たちで、その智慧をたくさんの方に知ってもらいたいと思い、喜界島、奄美大島で医療従事者、島民のために講演会を4回企画開催。また褥瘡改善のために有効な栄養補助食品の効能に関する研究に携わるチャンスをいただきました。電子カルテのデータから患者様の栄養状態、病歴等を分析することにより、経過途中で日本静脈経腸栄養学会で発表、その後分析を進め 5th European Nutrition and Dietetics Conference in Rome で発表。

(詳細については 医歯薬出版 臨床栄養 2016 9月号 Vol.129 No.3 海外学会発表体験記 参照) 喜界島の栄養を世界に発信できました。その流れを 徳洲会グループ(病院・介護施設 110施設) 業務改善大会で口頭発表したところ優勝。

この一連の活動により秋田在住時に大変お世話になった先生の推薦で、現職につながりました。

(聖霊女子短期大学 生活文化科 健康栄養専攻 講師) 面接時に学長が、昔昭和女子大が会場の勉強会に参加した時、講義を録音していた録音機の、電池が切れてしまった、買いに行くにも不慣れた場所故事務局にお店を尋ねに行ったところ、これをお使ください、と備品の電池をくださったそうです。その時の対応に感動、私が昭和女子大出身であることを履歴書で知り面接を楽しみにしていたとのことでした。

今ここで皆様に私の経歴をご紹介しながら、人生は出会いと別れと想定外の宝石箱、そして私の転機は、絶望と孤独、もうダメかも私、というときに栄養士の神様が人の姿を借りて、次のステップに導いてくださったように思います。仕事上で行き詰ったときには福島正子先生、竹山恵美子先生の研究室に駆け込み、学生に戻った気分で叱咤激励を全身で浴び、ああこの卒業生で良かったと、三軒茶屋の駅までの道すがら涙をぬぐいなが帰路についたものでした。そして今回私が短大で教える教科担当の不破眞佐子先生に繋げていただきました。

12年ぶりに秋田に戻った私に秋田支部の諸先輩は、「12年なんてあつという間ね、お帰りなさい。」と暖かい言葉で迎えてくださいました。

大変な思いをして身に着けた知識、学ぶことの奥儀やノウハウを惜しげもなく私に与えてくださった人たちとの出会いで今の私が存在しています。お陰様の言葉が身に沁みます。

これからは未来の栄養士のために今までの経験を活かし、もっと深く学びたいという私自身の灯を絶やさずにどんな事も楽しんでいきたいと思っております。 End

ー外来生物の脅威ー

「食」関連コラム NO.5

今年の6月以降、日本各地の港で強い毒を持つヒアリが発見され、現在、完全駆除には至っておりません。その他にも本来日本に生育しないアライグマ、ヌートリア、マンガースなどによる農業被害、ブラックバス、ブルーギルなどによる在来魚の減少、アレチウリの大繁殖は、農業用水路を覆い、オオハongoソウは、湿原の貴重な在来植物を駆逐します。

このように人間の生命・身体、農林水産業及び日本の在来生物の生態系に、大きな影響を与えるものを「特定外来生物」と国は指定しています。地域の生物多様性を保全し生態系を守るためには、拵げない、駆除することが大切です。被害予防の対策として、

外来生物を国内に入れない！ 野外に捨てない！ 他地域に拵げない！ の三原則です。